

## ハタチ基金へのご支援のお願い

ハタチ基金は皆様からのご寄付によって活動を実施しています。被災地の子どもたちを支援することは、被災地の復興、そして日本の未来を作ることに繋がると私たちは信じています。



### 個人で 継続的に支援

毎月の継続寄付会員として、月々  
1,000円からクレジットカード  
で継続的にご寄付。

#### お申し込みについて

①下記WEBサイトにアクセスし、  
ご希望の方法をご選択の上、お申し込みください。  
(銀行振込またはクレジットカード)  
[www.hatachikikin.com/shien](http://www.hatachikikin.com/shien)

ハタチ基金へのご支援は税制優遇の対象になり、  
所得控除または税額控除のいずれかをお選びいただけます。  
※お住まいの自治体によっては住民税も控除の対象になります。  
※詳しくはお近くの税務署にお問い合わせください。



### 個人で 都度支援

ご都合の良い時にご希望の金額  
を、銀行振込またはクレジット  
カードでご寄付。



### 法人・団体で 都度支援

ご都合の良い時にご希望の金額  
を、銀行振込またはクレジット  
カードでご寄付。

#### ②銀行振込の場合、下記口座にお振り込みください。

三菱東京UFJ銀行 高円寺支店(店番号:155)  
公益社団法人ハタチ基金  
コウエキシヤダンホウジンハタチキキン  
シヤ)ハタチキキン  
口座番号:普通 0144274

東日本大震災発生時に  
0歳だった赤ちゃんが、  
無事にハタチを迎えるその日まで。



## ハタチ基金 2015年度活動報告書

Report 2015

ハタチ基金とは、  
東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、  
20年間継続的に支援を行う基金です。



公益社団法人ハタチ基金

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F

TEL:03-3330-0005 (平日10:00~19:00)

[www.hatachikikin.com](http://www.hatachikikin.com)

苦しむ経験をした子どもは、  
誰よりもつよくやさしくなる。  
被災地の子どもたちの成長は  
この国新たな希望です。



家族を失う。友達を失う。

こんなにも大きな試練を一人で乗り越えていくことは、  
とても大変です。しかし、長期にわたり  
「君はひとりじゃない」と励まし、子どもたちに  
やさしさを届け続ける存在がいたら。  
きっと試練を乗り越えるための原動力の  
一つになれるのではないか。そしてきっと。  
乗り越えた試練の分だけ  
強さと優しさをもった大人となり、  
社会の中で起こる次なる試練の解決にも  
取り組める人となるはずです。  
そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

## もくじ

- 1 もくじ
- 2 代表理事より
- 3 インタビュー  
「夢に向かってがんばっている姿を見ていたくことが応援してくださる方への恩返し」
- 5 子どもたちの現状とハタチ基金のこれから
- 6 ハタチ基金とは
- 7 支援団体の活動報告
- 15 個人からのご支援
- 17 企業・団体からのご支援
- 18 支援者様からのメッセージ
- 19 会計報告
- 22 運営団体紹介

震災の年に生まれた世代は5歳。  
これからも皆様と一緒に、ゆっくりと長い視野で、  
東北の子どもたちを応援し続けたい。

はじめて東北の土を踏んだのは5年前の2011年4月17日。

自分にできる事を探して、人の紹介をたどりながら、宮城県石巻市の避難所や個人宅などをめぐっていた時、とある17歳の少女に出会いました。「地震の日から両親と会っていない。まだ見つからないけど、多分もう帰ってこないんだと思う。」と、言いながらも、近所の小さな子どもたちに様々な遊びの機会を作っていた彼女。「自分もつらいけど、小さな子たちはもっとつらい。私はもともと保母さんになりたいと思っていたから、その夢はどうなるかわからないけど、こうやって小さな子たちと遊ぶことにしたの」と、静かにはにかみながら、控えめな言葉で話していました。

一体この大きな東北沿岸の町々には、彼女のような少年・少女が何人いるのか。

本当に彼女たちを支えようと思うならば、長い時間をかけて寄り添う覚悟が必要で、さらに一人ひとりの置かれている状況に、細やかに心を寄せる専門家同士が手をつなぐ必要がある。また、遠方からも支援をしようと心を寄せてくださる方に賛同していただき、長きに分かって応援をしていただく方法をつくらないといけない。そんな思いで、取り憑かれたように企画書を書き、仲間と語り合いながら、ハタチ基金をつくっていきました。

この5年間、本当に多くの方々にご参加いただき、支援事業を実施する団体は、それぞれの場所で、安心して目の前の子どもたちを応援する日常を過ごせています。

震災から5年。震災の年に生まれた世代は5歳。

小学1年生だった世代は中学1年生。

中学1年生だった世代は高校を卒業し、  
もうすぐハタチを迎えます。

私が石巻市で出会った少女は今年22歳。

無事に専門学校を卒業し、保育士として働きながら、  
心を許せる人と家族になったと連絡が届きました。

これからも皆様と一緒に、  
ゆっくりと長い視野で、  
東北の子どもたちを応援し続けたい。  
今後ともハタチ基金へのご支援のほど、  
どうぞよろしくお願いします。



公益社団法人ハタチ基金 代表理事

今村久美

# 夢に向かってがんばっている姿を見ていただくことが 応援してくださる方への恩返し

あの日から5年。震災当時、中学生だった少女は大学生になり、夢に向かって一歩踏み出しました。ハタチ基金の助成事業である被災地の放課後学校「コラボ・スクール大槌臨学舎」(岩手県大槌町)で学んできた彼女のこれまでの歩みと将来の夢、そしてご支援いただいている方への感謝の気持ちをお伝えします。

## 5年前のあの日。さっきまでいた場所が消えていた

2011年3月11日。

高木さんは岩手県大槌町に暮らす中学1年生でした。

「震災の日は中学の卒業式の前日で、午後は友だちの家に遊びに行つたんです。急にテレビの画面がパッと消えて『え、何?』と思ったところで大きな揺れがきました。最初は『とりあえず』のつもりで高台に避難したのですが、下のほうを見たらさっきまでいたところがもう津波で流されていて。友だちのひとりが『津波、ここまで来るんじゃない?』とつぶやいたらみんなパニックになって、さらに上のほうまで転がるように駆け上りました」

「避難所での最初の夜は寒かったです。私は上着も持たずに逃げてきたのですが、避難所の方が体育館のカーテンを切ってくれて。それを毛布のようにしてみんなで入って暖まりました。余震で体育館の天井が一部落ちてきたり、外ではあちこちで火事が起きて。『私は津波じゃなくて火で死ぬのかな』って、3日間ずっと泣いていました。『死にたくない』って」



## 部活動とコラボ・スクールが自信になった高校時代

高木家は兄弟5人の7人家族で、幸いなことに家族は全員無事でした。

半年程の避難生活を経て2011年7月末に一家で仮設住宅へ移りました。

家族全員が揃うと布団が敷けない仮設住宅の生活。

家族が見るテレビの音が気になるなど、集中して勉強できる環境ではなかったと話します。

そんな高木さんがコラボ・スクールに通い始めたのは、震災から1年後の中学3年生になる春でした。

「通い始めてみたら授業がとても面白くて。教え方もユニークで私たちの反応を見ながら冗談も言ってくださるし(笑)。高校生になると『テストで赤点を取ると大会に出られないよ』と吹奏楽部の顧問の先生に言われたので、テスト前にはコラボ・スクールの自習室で勉強することにしたんです。そうしたら学年で2位になったので、今度はその順位を維持するためにがんばらざるを得なくなってしまった(笑)」

充実した高校生活でしたが、部活動では部長としてプレッシャーで苦しい時期もあった高木さん。

そんなときに支えてくれたのが、コラボ・スクールの先生でした。

「コラボ・スクールの先生に『大丈夫か?』と声をかけてください。話を聞いてもらいながら泣いてしまったこともあります。学校とは別の場所でこうして相談できる場所があるというの、とてもありがたかったです。あのときしっかり話を聞いてもらったから今の私がある、って思います」

## 将来の夢は、観光に関する仕事

高木さんの将来の夢は、観光や旅行に関する仕事に就くことです。

「吹奏楽部の遠征で各地を観光したり、いろんな方と交流したりするのが楽しかったので、将来は自分がそんな楽しさや幸せを届ける側になりたいと思うようになりました。英語や手話などを覚えて、多くの方をおもてなしできたらいいなって思っています」

高木さんはこの春、大槌町を出て東京で暮らし始めました。

昼間は大学事務の仕事をしながら、大学の夜間部で観光や街づくりについて学んでいます。

「大学の推薦入試もコラボ・スクールでの経験が大きかったです。高校での成績もそうですし、たくさんの方と話した経験が面接に活かせたと思います。面接で何を聞かれても全く動じずに答えることができました。大学生活は楽しいです。自分の興味のあるテーマについてもっと勉強したいし、大学内に交換留学制度もあるのでチャレンジするつもりです」



## 妹・弟たちも、コラボ・スクールで“憧れの人”に会ってほしい

高木さんの家族は現在も大槌で暮らしています。

中学生の妹さんはコラボ・スクールでがんばって勉強しているそうです。

小学生の弟さんが中学生になる頃には、仮設住宅を出て新しい“本当の家”に住むようになるかもしれません。

自宅で勉強できる環境が整ったとしても、高木さんは妹や弟たちにもコラボ・スクールで学んでほしいと思っています。

「コラボ・スクールはただ勉強をするだけの場所じゃなくて、やりたいことが見つかる場所なんです。『こんな大人になりたい』という憧れの人に対し、先生もそうだし、コラボを通じて普段出会えないような方にもお会いできたりするので、『自分ももっと活躍したい』という気持ちになるんじゃないかな」



## 支援してくださった方へ、素敵な場所をありがとうと伝えたい

「私の手元には、支援くださっている方々からいただいた名刺がたくさんあります。先日は大学の授業で、あるテーマについて社会人の方にインタビューする課題が出たので、ご連絡してお話ししていただいたところです。最初は支援してくださる方にお会いしても、どういう態度を取ったらいいか分からず、とりあえずお礼を伝えるくらいしかできませんでした。でも時間が経つにつれて、そのとき限りじゃないつながりを感じるようになりました。“支援する側”・“される側”というより、人としてのつながり。そうしたことを感じるようになって改めて、支えてもらっていることを実感するようになりました。ご支援いただいた方々には、私ががんばっている姿を見せることで恩返ししようと思っています。ご支援いただいた全ての方に、『コラボ・スクールという素敵な場所を、たくさんの出会いをありがとうございます』と感謝の気持ちでいっぱいです」

高木さんのお母様から

現在住んでいる仮設住宅は落ち着いて勉強できる環境ではありませんが、

中2の娘は毎日学校からそのままコラボ・スクールの自習室に向かい集中して勉強に取り組み、充実した顔で帰宅します。

コラボ・スクールは国内外の様々な方々との交流の機会があり、将来への夢が広がるお話を聞くこともできる場所です。

いまや、子どもたちにとってなくてはならないものになっています。

大槌の子どもたちに学習の場と社会勉強の機会を与えてくれる先生方と、支援者の方々に感謝し、

今後は子どもたちが社会貢献できる人に成長するよう願っています。

## 震災から5年 子どもたちの現状

インタビューでお伝えした高木さんのように、この5年間で被災地の子どもたちは力強く成長しています。

一方で生活環境の再建はまだ道半ばというのが実情です。

2015年5月1日時点で、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で被災した岩手、宮城、福島3県の35市町村で、プレハブ仮設住宅から学校に通う小中学生は約3,800人に上っています。宮城県女川町は全体の41%が仮設住宅住まい、岩手県大槌町では2012年度に比べ150人以上減っていますが、29%が仮設住宅住まいとなっています。



大槌町の仮設住宅



2016年3月11日の大槌町の様子

プレハブ仮設住宅から学校に通う児童、生徒数(人)

	小学生	中学生
岩手(12市町村)	787	480
宮城(12市町)	1245	762
福島(11市町村)	292	230
3県計	2324	1472

2015年5月1日時点。被災42市町村に取材し、7市町村は未集計。  
未集計を除く35市町村の総数は約6万6千人。  
参考:「仮設から通学 被災3県なお3800人」(2016年2月14日、河北新報)

## ハタチ基金のこれから

ハタチ基金は、震災で直接被害を受けた子どもたちへの支援はもちろん、震災に起因する子どもの課題や、震災が顕在化させた貧困などによる教育格差などの社会問題に取り組んでいます。課題先進地ともいわれる東北で教育事業を行うことは、この国の未来への投資につながるを考えます。

### 被災地における現状の課題

- 貧困の拡大**
- 生活の崩壊**
- 人心の荒廃**
- 災害の持続**

経済的困窮が学習機会の不平等につながり、結果として世代をこえた貧困の連鎖をうむ

家や仕事を失うことによる家庭環境の変化  
現在も元の状態にもどっていない

被災そのものや失業手当・補償による  
労働意欲や家庭環境の変化

先行きのみえない福島の原発事故に由来する諸課題

ハタチ基金とは、  
東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、  
20年間継続的に支援を行う基金です。

子どもたちに学び・自立の機会を提供するために、  
復興状況や現地のニーズに合わせて支援活動をしている団体へ助成を行います。  
皆様の想いとともに寄せられたご寄付を、確実に子どもたちのために役立てます。



0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの支援事業が助成の対象です。

### 2015年度の支援事業

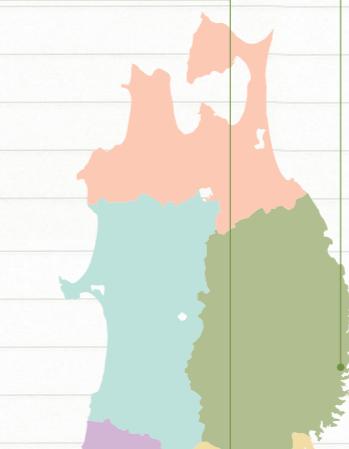
#### 学校外教育バウチャー提供事業 (事務所:宮城県仙台市)

※全国に避難している児童生徒を含む被災児童生徒が対象

塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、教育の機会を



運営:公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



コラボ・スクール大槌臨学舎  
(岩手県大槌町)

コラボ・スクール女川向学館  
(宮城県女川町)

勉強する場を奪われた子どもたちに、  
学べる場を



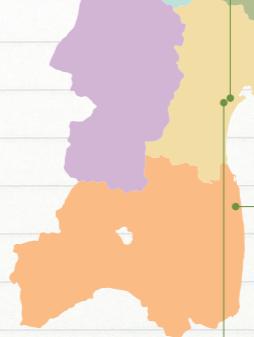
運営:認定NPO法人カタリバ

#### おうち保育園(宮城県仙台市)

働く親御さんが安心して子どもを預けることの出来る、「第2のおうち」のようなあたたかい保育園



運営:認定NPO法人フローレンス



みなみそうまラーニングセンター  
(福島県南相馬市)

子ども一人ひとりに合わせた居場所づくりとサポートを



運営:NPO法人トイボックス

# おうち保育園

認定NPO法人フローレンス

0歳～

働く親御さんが安心して  
子どもを預けることの出来る、  
「第2のおうち」のような  
あたたかい保育園



## 課題

仙台は全国でも待機児童数が多い地域。働きたい親御さんが安心して預けることができる保育園が必要です。

震災から5年、一見すると震災前の日常を取り戻しているかのように見える東北最大の都市、「仙台」は、2012年頃より待機児童数が増え始め、2014年には待機児童数全国ワースト3位、2016年4月時点でも、依然203名の待機児童がいます。「働きたくても預け先がなく働けない」、これは仙台の、ひいては東北の経済的な復興の妨げになる深刻な事態です。保育ニーズの高いエリアに機動的に小規模保育所を開園することで、待機児童問題を解消し、東北地方の経済的復興を下支えすべく、今後もおうち保育園の運営に取り組んでいきます。

## 活動

子どもたちが笑顔で安心して過ごせる、そんな第2のおうちのような家庭的な保育を目指して。

待機児童問題で悩む仙台の子育て家庭が安心して子どもを預けることができる第2のおうちのような家庭的な保育を目指して、2015年4月に0歳～2歳の子どもたち（定員12名）の「おうち保育園こうとう台園」を、2016年4月に「おうち保育園木町どおり園」を開園しました。家庭的な手厚い保育を実現し、親御さんも子どもたちも安心して過ごしています。



震災から5年、一見すると震災前の日常を取り戻しているかのように見える東北最大の都市、「仙台」は、2012年頃より待機児童数が増え始め、2014年には待機児童数全国ワースト3位、2016年4月時点でも、依然203名の待機児童がいます。「働きたくても預け先がなく働けない」、これは仙台の、ひいては東北の経済的な復興の妨げになる深刻な事態です。保育ニーズの高いエリアに機動的に小規模保育所を開園することで、待機児童問題を解消し、東北地方の経済的復興を下支えすべく、今後もおうち保育園の運営に取り組んでいきます。

TOPICS



## 地域密着の愛される保育園に

安心の保育の実現は、地域に愛されることだと考え、地域の方々との関係づくりを大切にしています。仙台市のお祭り「青葉祭り」にて、保育スタッフ、園児、親御さん一緒にお揃いの法被を着て、演舞に参加するなど楽しみました。また、地域ボランティアの方々に絵本の読み聞かせやわらべうたを使った手遊びなどをしていただいています。

## 成果

地域に愛され、地域に見守られ、地域に育てられる保育園でありたい。

2015年4月におうち保育園こうとう台園、2016年4月におうち保育園木町どおり園の開園で、一時保育も含めこれまでに0歳～2歳の子ども約70名をお預かりしています。

単にお預かりするだけでなく、一人ひとりの子どもたちの成長に寄り添い、日々できたことを喜んでいます。また、青葉祭りや遠足、ハロウィンなど季節の行事を大切にしながら、子どもたちの成長を見守っています。

MESSAGE



写真はイメージです。

## 保護者からの声

保育園の皆さんと一緒に地元のお祭りに参加しました。人見知りの子なので最初は大丈夫かしら…と不安でしたが、出てみると道行く人がかわいいと言ってくれてとても楽しかったようです。東京からたくさんの方々がこうとう台園の為に参加されているのを見てありがたいな、本当に良い保育園だなと改めて感じました。子どもがのびのび通っているのも、先生たちが寄り添ってくれているからだと思います。



## 小規模ならではの親御さんとの密なコミュニケーション

私たちは、保育所運営にあたり、親御さんを顧客ではなくクルーと考えています。親御さんと、子育てについて対話し、ともに考えることを実践してきました。「悩んでいる時に話を聞いてもらいたい心が軽くなりました」、「話せたことで、気持ちが切り替わり子育てに前向きになれました」といったお声をいただきます。今後も、親御さんとのコミュニケーションを大切にしています。

## 今後のビジョン

これからも働くお父さん、お母さんを応援し、みんなで子どもたちの笑顔を抱きしめるそんな社会にしていきます。

東日本大震災から5年経過し、悲惨な爪あとは薄れつつあります。その中で、東北の経済の中心、仙台市は多くの待機児童を抱え、今なお保育園が不足している状態です。そこで、預け先がないために働けずにいる親御さん、ひとり親などの理由で、経済的に厳しい環境におかれている親御さんが、安心して子どもを預けられるよう、今後も待機児童の多い地域に小規模保育園「おうち保育園」を開園していきます。同時に、障害のある子どもを長時間預かる「障害児保育園」の開園も検討しています。

**Florence**  
認定NPO法人フローレンス

認定NPO法人フローレンス

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-3-7 秋穂セントラルビル2F

☎ 03-5275-1161(9:00～18:00)

<http://www.florence.or.jp/>

「みんなで子どもたちを抱きしめ、子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む「病児保育問題」「待機児童問題」「障害児保育問題」解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の病児保育の仕組みを構築し、現在、首都圏を中心に展開しています。また、待機児童問題では、0歳～2歳を対象とした小規模保育事業を展開し、東京都内に13園、仙台市に2園を運営しています。また、日本初である障害児の長時間預かりを可能にした「障害児保育園ヘレン」を東京都杉並区、豊島区で運営しています。

# みなみそうまラーニングセンター

NPO法人トイボックス

5歳～



子ども一人ひとりに  
合わせた居場所づくりと  
サポートを

## 課題

震災から5年。  
子どもと親が家族で安心して  
南相馬で暮らし続けることができる居場所づくりを。

震災から5年が経過しましたが、今も南相馬は震災前の状況には戻ることができないまま苦しんでいます。避難指示解除、常磐線一部開通等、環境面の復興は一歩一歩進んでいますが、困難を抱え支援を必要とする子どもの入所希望、ご家族からの相談は日々増加し、その件数は昨年度の3倍にのぼります。親子が家族で安心して南相馬に暮らし続けることができる居場所づくりに、ひき続き取り組んでいます。

## 活動

家庭や地域との連携で  
幅広いサポートを。

発達障がいなど様々な課題を抱える子ども達の学習支援、心理ケアを行うことを目的とした施設を運営しています。年に4回のイベントを定期的に開催し、子どもが主体性を持てる構成にすることにより、達成感や自信を感じることができるような取り組みを行っています。また、子どもに対して悩みや困り事がある保護者には個別に相談・面談を実施し、きめ細やかなサポートを行っています。加えて、専門スタッフの派遣などによって自治体や地域の学校などとも緊密に連携し、幅広い協力体制を築いています。



## 野外体験学習

大自然の中での遊びを経験できた子どもたち

夏休み中、猪苗代へ野外体験学習に行ってきました。川遊び、陶芸体験など、普段、南相馬ではできない経験ができました。陶芸体験では、作り上げる難しさ、出来上がった時の喜びを実感することができました。川遊びでは、虫探しや天然プールで大はしゃぎ! 大自然の中だからこそできる遊びを経験した子どもたちは大満足の様子でした。



## クリスマス会

協力する楽しさを学んだ子どもたち

ピンゴやゲーム、ケーキ作りなど内容盛りだくさんのクリスマス会を行いました。子どもたちはそれぞれのサンタの衣装に着替えて飾り付け。座布団取りゲームでは、目の前で繰り広げられる真剣勝負に見ている子どもたちも大興奮でした。メインイベントのケーキ作りでは、一人一人が周りに気を配りながらグループで一つのケーキを作り上げ、美味しそうに頬張っていました。事前の飾り作りから当日のケーキ作り、そしてお手伝いまで、子どもたち全員が協力して行い、何かを「作り上げる楽しさ」を学んだ一日でした。

## 成果

支援を継続してきたことにより、  
信頼関係が築かれました。

2015年8月より安定的に継続できる基盤を整えるため、南教室と中央教室を統合。さらにきめ細かい支援が可能になりました。2015年度の延べ利用者数は1,683名でした。

新規利用希望の問い合わせ、家族からの相談件数が日々増加し、その件数は昨年度の3倍にのぼっています。震災直後から支援を継続してきたことにより、保護者との間に強い信頼関係が築かれています。



## 保護者からの声

娘がラーニングセンターの開所以来、お世話になっております。震災後は子どもたちの勉強や遊びなど様々な面で困難なことが増えました。しかし、ラーニングセンターのお陰で色々な体験や経験をすることが出来ました。これもご支援を頂いている皆様のお陰だと思っています。これからも南相馬の子どもたち、ラーニングセンターの子どもたちを見守ってください。

## 今後のビジョン

開始から5年。年齢の幅も広がりニーズが高まっています。  
子ども達の心に寄り添った支援を続けます。

事業の開始から5年が経過し、当時は小学生だった子どもも中学生となり、年齢の幅も広がってきてています。現在は小学生から中学生までを通所対象としていますが「高校生になっても通いたい、通わせたい」という要望が多く寄せられています。多様化するニーズに応えるために、今後も困難を抱える子どもたちの心に寄り添った支援を続けていきます。

**TOY BOX**

NPO法人トイボックス

〒550-0015  
大阪府大阪市西区南堀江2-13-30  
サンイーストビル9F  
☎ 06-6543-4770  
<http://www.npotoybox.jp>

さまざまな分野の専門家が集まり、教育からまちづくりまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。

# コラボ・スクール

認定NPO法人口タリバ

5歳～



## 課題

震災から5年。  
長期化する復興の中、  
子どもたちはまだ元の生活に  
戻れずにいます。

宮城県女川町と岩手県大槌町は、東日本大震災による被害が特に激しかった地域です。ここには地震発生から5年たつた今も、仮設住宅での生活を続ける子どもたちがまだたくさんいます。落ち着いて学ぶ場と居場所を失った子どもたちの多くは、集中して勉強できる環境にありません。また、長期化する復興に子どもたちの心は大人たちが考えるよりもずっと敏感に反応しています。5年たった今だからこそ、日常的に寄り添い、支える空間の提供を継続的に行うことが必要とされています。

## 活動

津波で家を流され、学ぶ場を失った  
子どもたちのため、放課後の学習支援  
と心のケアを担っています。

女川町と大槌町に設立した  
コラボ・スクール(女川向学館、大槌臨学舎)は、子どもたちに「震災があったから、夢をあきらめた…」、こうした悔しさを抱いてほしくないとの思いから生まれた放課後の学校です。数学・英語などの基礎学力の学習、インターネットを使った英会話などの発展的な学習の支援と心のケアを行い、未来の復興を担うリーダーの輩出を目指しています。



TOPICS



## プロジェクト学習を通じて、 町の復興のために行動

生徒が地域や身の周りの問題解決に向けて、自らプロジェクトを立ち上げ実際に行動する「マイプロジェクト」学習を行いました。女川向学館からは高校生7人、大槌臨学舎からは8人がマイプロジェクトを実行し、内6人がマイプロジェクトアワード2015地域大会に参加。1人が全国大会まで進み、「個人商店を起点とした町おこしのプロジェクト」で個人部門・全国3位に輝きました。

## 成果

基礎学力の向上に加え、子どもたちの  
居場所作り、さまざまな大人たちとの  
対話によるキャリア学習の機会を  
提供してきました。

2015年度は、園児から高校生まで366人をサポートしました。大槌臨学舎へ通う中学3年生の96%が「コラボを通して、学習の仕方がわかるようになった」と回答。また、基礎学力の向上に加え、インターネットを通じた英会話学習、新聞記事を利用した読解力講座、科学実験など発展的な学習の機会の提供も行いました。

MESSAGE



## スタッフからの声

コラボ・スクールのような場所は以前の女川町にはありませんでした。生徒たちは勉強だけではなく、町外の様々な人たちと出会う機会をもらって、将来の可能性を広げているように思います。未だ、町の至るところで工事をしていて、大人以上に子どもたちは常に心が“落ち着かない感じ”を、ずっと持ちながら過ごしています。そんな子どもたちにとって学校と家以外の居場所となるコラボ・スクールは必要だと感じています。



## 女川向学館で幼児クラスがスタート

復興を急ぐ女川町では、小さな子どもたちが安心して遊べる場所がまだ充分ではありません。「家の周りと一緒に遊ぶ子たちがいない」「もっと思い切って遊ばせてあげたい」という保護者の声を受け、2015年7月、女川向学館に幼児クラスを開講しました。小学校生活へスムーズにつなげられるよう、楽しく学ぶ機会をこれからも届けていきます。

## 今後のビジョン

行政・学校・地域・保護者、  
様々な大人たちで連携してこれからも  
子どもたちを見守り育てていきます。

長引く復興の中、女川・大槌の子どもたちを取り巻く生活・学習環境はまだ万全とは言えません。将来、町を担う子どもたちの心のケアと、自分自身で「未来の答え」を見つけ出す生き抜く力を持った人材の育成・輩出は、喫緊の課題となっています。コラボ・スクールは地域との連携を深め、保護者、教育委員会、学校の先生、地域住民などの関係者と共にこれからも継続的に子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

生き抜く力を、子ども・若者へ

NPOカタリバ

認定NPO法人口タリバ

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南3-66-3

高円寺コモンズ2F

☎ 03-5327-5667

<http://www.katariba.or.jp/>

NPOカタリバが取り組む社会課題は、未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうことです。すべての子ども・若者が、自ら思い描いた未来を切り開いていくために、私たちが育てるのは「生き抜く力」。首都圏をはじめ全国では、高校生の心に、“火を灯す”「カタリ場」を、東北では、子どもたちのための放課後学校「コラボ・スクール」を展開しています。

# 学校外教育バウチャー提供事業

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

6歳～



塾や習い事に  
通えなくなった子どもたちへ、  
教育の機会を



## 課題

震災から5年。  
厳しい経済環境の中でも、  
学習に意欲的な子どもたちへの  
支援が急務です。

私たちが2015年に発刊した「被災地・子ども教育白書」では、「震災後に貧困に陥った子どもたちは、震災前から貧困だった子どもたちと比べて学習意欲が高い」ことが明らかになりました。表面上は明るく意欲的な子どもたちへの支援は見過ごされがちですが、事態を放置すると、子どもは意欲を失ってしまう恐れがあります。また、2015年度、当法人には定員の約7倍もの子どもからバウチャー利用の応募があり、1,000名以上に支援を届けることができませんでした。希望を途切れさせないためにも、一人でも多くの子どもを支えることが急務だと考えています。

## 活動

塾や習い事で利用できる  
学校外教育バウチャーの提供を  
通じて、364名の子どもたちの  
学びの機会を支えました。

2015年度は、東日本大震災で被災した364名の子どもたちに対して、塾や習い事などで利用できる学校外教育バウチャーを提供しました。また、仙台では定期的に専門家の研修を受けている99名の大学生ボランティアが子どもたちと面談を行い、進路や学習、バウチャーの活用方法について相談に乗り、子どもたちの成長を支えています。



TOPICS



これまでの5年間でバウチャーを提供した  
子どもたちの数が延べ1,000名を超えました

活動を開始して以来、5年間のバウチャー利用者の延べ人数が1,000名を超みました。バウチャー利用者卒業生の中には、バウチャーを利用している子どもたちの学習・進路相談にのる大学生ボランティアとして、あるいは街頭募金活動を行う大学生ボランティアとして、チャンス・フォー・チルドレンの活動に参加する学生も出てきています。

## 成果

子どもたちは夢や目標に向かって  
前進しています。

学年別 小学生119名、中学生97名、高校生148名

地域別 岩手県40名、宮城県272名、福島県42名、山形県1名、新潟県1名、栃木県2名、埼玉県1名、東京都2名、京都府3名  
※京都、東京、栃木、埼玉、山形、新潟は県外避難中の子どもです。

- バウチャー利用率(利用額／給付額): 82.4%
- 中学3年生・高校3年生の93.9%が希望する進路に進んだ(77名/82名) ※アンケート回収率88.2%



## バウチャー利用者からの声

僕は高校受験をひかえた中学3年生です。バウチャーで塾へ通わせてもらっています。震災後、父は転職を余儀なくされ、経済的に塾に通うことが難しくなり、以前通っていた塾をやめざるを得ませんでした。それからは、成績も下がる一方で勉強を頑張る気持ちがなくなりつつありました。しかし、そんな時にまた塾に通う機会を与えていただき、志望校合格のため毎日勉強に励んでいます。いつか僕を支援してくれた方々のように、人のためになる大人になりたいです。本当にありがとうございました。



バウチャー利用者の報告会を開催しました  
震災から5年となった今年3月、仙台でバウチャー利用者の報告会を開催しました。バウチャー利用者の子どもたちに加え、保護者の方々、大学生ボランティア、支援者の方々、総勢230名の方々がお越しくださいました。当日は、バウチャーを利用して志望校に合格した高校生や卒業生によるスピーチを行いました。子どもたちと支援者の方々が、楽しく談笑する光景も見られました。

## 今後のビジョン

子どもたちが希望を  
持ち続けられるよう、今後も  
継続的に活動に取り組みます。

2015年度は、昨年度から継続してバウチャーを利用している149名の子どもたちに加えて、新しく215名に支援を届けることができました。一方、昨年は約1,500名からの応募があり、1,000名以上の子どもたちにバウチャーを提供できていません。震災から5年が経ちましたが、被災した子どもたちが学ぶ意欲を持ち続けられるよう、今後は自治体や他の支援団体とも協力しながら子どもたちを支え、継続的に活動への共感者を増やしていきたいと考えています。

 Chance for Children  
公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

〒662-0832  
兵庫県西宮市甲風園1-3-12 カミヤビル3階  
☎ 022-265-3461

<http://www.cfc.or.jp/>

Chance for Childrenは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきたNPO法人ブレーンヒューマニティーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分な学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を』をスローガンに、学校外での教育格差を解消し、すべての子どもたちがチャンスを得られる社会を目指しています。

# 個人からのご支援



北山 陽一  
ゴスペラーズ

震災の時に産まれた子どもがハタチになるまで支えたい。で、ハタチ基金。この20年という活動目標期間は、覚悟のあらわれだと思いますが、僕は、これは祈りだと思ったんです。言葉にして、叶えるんだ、という強い想い。僕はそこに共感しています。起承転結で言えば起から承に移っていくいま、ハタチ基金の今後に、とてもワクワクしています。

毎月の継続寄付会員  
(呼びかけ人)  
**約1,200名**  
(2016年3月末時点)



関根 郁夫  
埼玉県教育委員会教育長

あなたは、あなたの隣にいる人たちにとっての希望です。あなたは、先を行く人たちにとっての希望です。あなたは、後から来る人たちにとっての希望です。誰もが誰かの希望なのです。だから、支えてもらって、支えてあげて、一緒に前を向いて歩いてゆきましょう。



酒井 空  
株式会社BOLBOP  
代表取締役CEO

震災からの復興への「コミットメント」の強度は、僕たち自身で決めることができます。たとえ被災地に直接行って支援をすることができなくとも、支援には様々な関わりかたがあります。



角田 千秋  
アローレイクカンソリー倶楽部

福島で生まれ、福島で暮らしています。私にとって震災は決して他人事ではありません。東北の子どもたちが普通に健康に暮らしていくける未来を願っています。

藤田 真  
自営業

2年7か月前、私も親になりました。今の私にとって鳳輝(長男)と妻が全ての支えになってます。そして、なによりも大切な存在です。突然、私の前から二人がいなくなったら…大人の私でもきっと、どうしたらいいのかわからなくなってしまうと思います。子どもの笑い声にはなにか不思議な力があると思います。子どもたちが笑っているだけで幸せになれるんです。だから大人たちも子どもたちを幸せにしたいといけないと思います。

本田 洋子  
3児の母

マレーシア在住です。現地に住む日本人の方々からご献品いただいた不要品を販売し、ハタチ基金に売上金を寄付する活動をはじめて、2年以上が経過しました。これからも、被災地の子どもたちの健やかな成長を願う気持ちを、海の向こうから届け続けて行きたいと思っています。

ハタチ基金では、毎月の継続寄付会員の皆様を、「呼びかけ人」と呼んでいます。人々の震災への記憶も、残念ながらだんだんと風化していきます。そんななか、一人ひとりが身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援につながります。

ハタチ基金の「ハタチ」には、「20歳」「20年」という意味と、「葉たち」という意味があります。木の幹(子どもたち)が育つためには、葉(=太陽の光を養分に変える)の存在が必要不可欠です。



平井 豊康  
株式会社ソフィア  
CHO/Executive Learning Facilitator

被災地支援には継続的な視点が必要だと思っていました。5年のときが過ぎましたが、今でも地元の仲間に声をかけたり、会社で行っている寄付活動で協力させていただいたりなど、ささやかながら呼びかけを続けさせもらっています。



佐藤 珠実  
ティエヌティエクスプレス株式会社  
人財本部

二児の母です。うちにはもう1人子どもがいて、わが子と同じように習い事をさせているような気持でハタチ基金を続けています。知識や技術を身につけて、自分で未来を切り開く力をつけてください。ずっと応援します。



林 隆  
辻・本郷 税理士法人

「東日本震災についてどう思いますか?」という質問に「安心して任せてください。きっと、私たちの世代で立て直してみせます。」と答えた女子高生がいました。若い人、子どもたちに支援ができればと思います。

たなかりか  
ジャズシンガー

これから先も忘ることなく、長く支援し続ける為には何をするべきかを悩んでいました。その時にこの支援法を知りました。私一人では微々たる力ですがこの支援の輪がどんどん広がって行くことを祈ります。

吉田 紫磨子

NPO法人マドレボニータ認定  
産後セルフケインストラクター

14,10,6,3歳の子どもを育てています。未来を生きる子どもたちが心身とともに健やかに育つことを願っています。日常にうもれて記憶が薄れかねない中、継続して支援できる仕組みづくりをありがとうございます。

峠 文子

友愛薬局 代表取締役  
管理薬剤師

一生懸命に生きている子どもたちを尊敬します。20歳になるまで多くの困難にぶつかるでしょう。出口のないトンネルはないので少しづつ前進していくお手伝いができればと思っています。

(呼びかけ人)荻野弘之、今村久美、関根郁夫、後藤健夫、山崎清治、中野真衣、中原淳、平川哲、梅村淳、三谷宏治、山内悠太、小村俊平、鈴木啓大、白井智子、村松和彦、馬場学、皆川司、岡崎大輔、杉山達哉、常峰和生、谷本勉、大見勉、吉次潤、北山陽一、岩井俊宗、中山裕美子、小山史未子、菅原美智子、森薰、篠原建志、村田早耶香、荒川寛子、畠高孝雄、町田智雄、清末真司、伊月和夫、村田一倫、中村慶子、吉田紫磨子、安田七海、上原航平、大湯咲子、三好史恵、眞鍋康正、松江妙子、川本純子、大木かおり、酒井穂、村上久乃、石田明、久野哲、野中亮宏、田中たまき、水野貴允、宮川直子、泉朋行、古屋克己、國領二郎、茅野和枝、鷹越恵美子、西尾伸介、芝原靖、田島弓子、山本龍太朗、波多野淳、渋谷治美、小倉美代子、新屋幸平、牧村雅美、新井清美、町田あき子、吉田真奈美、斎藤亜弓、吉村加代子、近藤克彦、清野千恵子、篠原由美、神谷純子、田村準、野口陽子、堀越美紀、岡本拓也、クレイネス教子、寺脇研、山崎倫代、中澤澄夫、長谷川里奈、河村昌治、田中綾乃、植村久也、水沼健、井生亮一、山路直司、出町慎一、高島由美、庄司真、鈴木信章、西原真人、林高志、笠原しょうじ、大石一也、山本薰子、増田裕幸、斎藤和幸、鹿野隆、瀬島成土郎、川端洋子、掛端薰、松下光司、三輪潤子、山本由美子、石田君宏、浜中和美、佐藤尚志、北澤ちさと、吉本知子、村松賢司、小林紀方、貫井政文、辻本敏子、鈴木厚子、石川美穂、鳥越太郎、山内萌子、龍島裕介、下村信子、大島美穂、宮内英子、平井豊康、鈴木慶男、石田みのり、松原真樹、石垣路子、富田英明、野々山和美、山口裕臣、金子孝代、野々垣みどり、中山貴美子、村智、米倉弘樹、霜村叡真、石崎雅士、長谷川勇紀、長谷川美貴子、中川奈都子、古川佳子、今林正嗣、浦橋美加、野口潤、若菜恵、服部繁男、國金美砂絵、荻山桐晃、井上千賀子、中野純、桂井啓勝、黒田朋美、上原孝之、八塚絵里、石原玉美、大山和寿、草野康代、宮田祐子、志垣有紀、大塚雅彦、たなかりか、外岡周、手柴孝太、桂隆博、服部祥子、原田裕、太田智子、濱岡俊、川口崇、小室吉隆、貫井猛晶、渡辺貴久、酒向笑子、宮原契子、井上規正、道添佳恵、大野里香、神谷佳子、林隆、久保田奈穂子、池田彩子、中野充亮、高木真理子、田辺彰、勝村和子、高島啓輔、浅井琢也、京野玄、伊藤裕子、木寺寿徳、守屋麻樹、斎藤薰、高野昌典、出村一夫、松浦俊夫、鈴木亜紀子、秋元祥治、吉田裕介、井上光恵、工藤博司、西村大気、中島隆文、茅野博、長山晴美、高橋弘行、日下美穂、阪本圭、岩崎梨恵、佐々木早苗、森山友加、谷本悟、鈴木倫子、八巻知香子、新井睦美、大谷亜希子、川越修、戸田靖子、佐藤洋行、織田亜由美、伊藤慎悟、大久保直之、宮城島知恵子、出口善也、力田春彦、村井宏行、石田洋司、山崎ゆみ子、小林智彦、中島徹、村松邦子、清水俊子、高橋直人、志村啓、二瓶孝浩、高須生恵、向山武俊、齋藤左知子、

重面武、小林聖子、近藤安明、山内伸一、神原陽平、浅見有紀、内田幸栄、猪瀬美樹、初谷透、横山元、高山真理子、石原典明、小林尚子、戸崎優、永田正樹、加藤節子、早房君枝、北川尚之、芳賀淳、村松由美子、奥田洋子、給前悟郎、名倉真紀子、蔭山和子、熊澤みさき、浅野信彦、和田理恵、桐山賢一、伊東章、大坪健雄、佐藤広子、石川茂樹、林久美、南川かおり、河合慶子、大田多美子、小見山卓哉、水野清、桐山裕文、小阪由美、小石浩子、早坂剛雄、菊池廣平、大田勇、小崎太郎、宗像勝巳、寺町東子、篠原昭寿、近藤多恵子、山下千賀子、庄屋奈緒美、小尾勝吉、川上文恵、簗曾敏彦、平塚剛、石川紀子、金子浩之、今野いおり、植木久一、奥野友紀、山下兵衛、石川清久、石橋隆一、堺寛、田野梓、前本由季、小池寛子、鈴木奈美紀子、佐々木巧、木村英之、市原淳子、羽田美佐江、小倉雅子、柳井亮子、長尾英次、山田佳男、佐藤剛、武田洋子、上条訓之、古澤法之、外崎明誠、塚越淳雄、阿波野聖一、新井雅美、川島ひろみ、北澤聖子、和田昌興、大山順司、藤本泰世、原加寿美、池上未斗史、杉田汎子、松村友紀子、山崎千晶、堀井裕司、川嶋規郎、杉岡早希子、池田陽一、中川浩史、吉村章、山崎玲哉、麻田智奈美、加藤愛子、小林洋哉、澤口真巳子、佐藤寛、中島幸治、白石禎子、伊藤正則、池羽博、純子、杉岡ひとみ、鵜飼惠太、大塚雅一、橋本麻里、畠地志子、鈴木綾佳、藤原芳輔、飯田寛子、稻葉千葉、山口惠、飯田博子、菊宮浩二、川嶋真理、本間梨恵、鈴井孝史、大滝直義、芝田あゆ美、富安基隆、増田優貴、山田裕平、横山健一、角田明良、谷中泰久、高柳妙、堀田峰明、石川淳、坂本大、安岡和則、岩崎亞由美、西村先見、堤康之、コルビン麻衣、平岩美智代、鈴木知代子、對馬啓介、吉村実、今福吉和、小原亜紀子、藤井美朔、德森綾、鈴木廣平、木部紗生、高畠良、浅井健、山本剛士、伊藤隆、名倉啓了、寺澤伸太郎、池田洋、白井和美、三島聰史、林幸司、奥井伊都子、下岡麻子、金森詩音、川西雄一、小泉利允、山中祥子、手嶋亮、小野健治、安藤志津子、鳥居恭好、山中昌弘、白鳥祐一、池田ひろ美、佐藤美保、木村紀之、大平一雄、佐藤珠実、山崎絵津子、酒井徳次郎、横田春日、古川由己、清野雅章、山口有里、杉本直子、佐藤潤、栗原利恵、塚原敏江、黒田ひろこ、片岡文子、箕輪勉、江島裕司、笠島明男、竹中星郎、三浦希帆、岩越祥晃、佐藤順子、岡本ひで代、石田聰子、水戸口恵美、前田隆一、田中昭彦、高橋弘行、西村和巳、小林美紀、森本篤、葛西慈和、分部雄太、川嶋昌樹、松山亜紀、落合秀雄、石橋和也、島津順子、佐藤恭子、當山啓介、乗田かな子、鈴木浩、木屋正和、西野由佳、山森純子、柴田耕輔、種田麻衣子、神戸梓、加川隆彥、市川千賀子、海野俊、斎野健、太田在、青木美幸、大山順司、近藤智子、真鍋英規、松下温美、山口育男、長谷川桃枝、村山綾、松井和、中嶋誠一、鷲巣雄介、上原佐知子、関根弘二、佐藤良子、徳永久美子、若菜睦、牧野麻衣子、堀井良、浅井健、山本剛士、杉本和俊、佐藤勲、堀米初美、中平陽子、豊島洋一、フェルナンデス由布子、奈良坂浩、今岡清、竹津千登世、中西やよい、川上輝、藤谷智子、浅井潮、松尾麗、五十嵐寛之、山下太郎、奥林務、鈴木聰美、西中真寿美、伊東和彦、山室友美、永田和香子、山口玄恭、中森智恵子、内田信、齋藤順子、大谷みゆき、林田建成、平野悠介、鎌田江利子、迫田大貴、岩満久典、藤田章弘、田中康弘、佐々木拓也、川口美佐世、中山奈々帆、鈴木玲子、池本昇平、山田真琴、坊農沙緒里、藤田真、菊地佑登、柴田強、大子大子、杉本和俊、佐藤勲、堀米初美、中平陽子、豊島洋一、フェルナンデス由布子、奈良坂浩、今岡清、竹津千登世、中西やよい、川上輝、藤谷智子、浅井潮、松尾麗、五十嵐寛之、山下太郎、奥林務、鈴木聰美

※2016年3月末までにお申込みいただいた方のうち、お名前の掲載を許可いただいた方のみ掲載しております。

## 支援者様からのメッセージ

### 企業・団体からのご支援

ハタチ基金では、2015年度、企業・団体様からのご寄付を200件以上いただきました。継続的にご支援をいただく企業・団体様も多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪と一緒に広めるためのご協力もいただいております。

伝統の技と心 手づくりの酒



株式会社一ノ蔵

「一ノ蔵 特別純米生原酒 3.11未来へつなぐバトン」の売上金全額を2012年よりご寄付いただいている。



ダイドードリンコ株式会社

「地域コミュニティ貢献積立金」を通じて、2011年より継続的にご寄付いただいている。

HOTTA CORPORATION 株式会社ホッタ  
SINCE 1879

長きにわたり社会貢献活動を積極的に展開されており、震災後は継続的なご寄付をいただいている。



日油株式会社

地域に開かれた企業として、次世代育成の観点からご支援いただいている。

アソシエイテッド・インターナショナル株式会社

日蓮宗島根県教化センター

株式会社サンポール

アズワン株式会社

株式会社ディノス・セシール

アニメーター有志チャリティ本『BULLET』、J-POWERグループユニオン、銀座西並木通り会、松谷商事株式会社、KDDI株式会社、チューリッヒ日本人会、レインボーマン・けいはんな記念公園管理事務所(共催)、心の絆応援プロジェクト実行委員会、株式会社サンペール、有限会社マカロニ、株式会社生活総合サービス、大阪ガス株式会社、株式会社クオカード、一布会、岩国あしなが会、NPO法人Dance Association Seeds、一般社団法人 日本サロネーゼ協会、Boulangerie-Patisserie ALLARD、株式会社アイ・オー・データ機器、Japaneasy Pty Ltd、北海道大学医学部41期会、HMC事務局、尾張旭ランニングクラブ、株式会社ライフコミュニケーション、株式会社サイ・コーポレーション、つながる箱、有限会社エキスパート、山佐産業株式会社、株式会社ジンテック、国際医療福祉大学、株式会社ニュー・ビジョン、株式会社ケイアイ・コンツェルン、japanska andrahandsbokhandeln、特定非営利活動法人ふたば、アコードィオンアンサンブル総、ラッセル・インベストメント株式会社、株式会社リベルタ、株式会社エルゼ、NECソリューションズノベータ株式会社 北海道支社、まんまる市、高田馬場 新田歯科医院、株式会社パソナテック、株式会社セールスフォース・ドットコム、福島ABCCミーティング実行委員会、京都市少年補導委員会・京都府少年補導連絡協議会、JUN NAKANO CLAYWORKS、医療法人 大慈会 三原病院、株式会社ディノス・セシール従業員ご一同、コアスタッフ株式会社、うえと salon&bar、湘南寒川パソコン教室 ちづる大楽、株式会社CORE技術研究所、日蓮宗名古屋青年会、株式会社石上建設… ※その他、たくさんの企業・団体様からご支援をいただきました。



コアスタッフ株式会社  
代表取締役

戸沢 正紀

当社コアスタッフ株式会社は、東京都豊島区に本社を置く、半導体・電子部品・モジュール製品の専門商社です。当社では、「在庫リサイクルプログラム」の一環として、被災孤児、および被災地の子どもたちの支援をするために、ご賛同企業様の委託在庫が販売成立する度に一定金額を積立てて参りました。毎年、1年間の合計金額をまとめて寄付させていただいております。今後も、被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「在庫リサイクルプログラム」を通じて、年に一度、ご寄付いただいています。  
<https://www.zaikostore.com/>



ハタチ基金チャリティコンサート2015  
実行委員会  
堀田 峰明

音楽という触媒を通して、被災地へ温かいまなざしがそぞろお手伝いを、これからも続けていきたいと思っております。これまでのコンサートでは、ハタチ基金の方に被災地での活動報告をしていただくコーナーを設け、その後の懇親会では多くの参加者の方と交流していただきました。

2012年から継続的に開催されているハタチ基金チャリティコンサート。2015年度も80名の方にご参加いただき、収益の全額をご寄付くださいました。



DJ & プロデューサー  
松浦 俊夫

被災地に根を張り、こつこつと着実に子どもたちの未来への道しるべを示し続けているハタチ基金を応援するためにRun For Children Tohokuはこれからも継続していきます。

松浦俊夫さんが発起人となったチャリティランニング・プロジェクト「Run for Children Tohoku」を3月に開催。イベントへの参加費用をご寄付いただきました。



ジェコレ株式会社  
代表取締役

加藤 雅之

この「アマネカ」シリーズは、私が発明し全国で販売中の日本初のフリーサイズブックカバーです。私同様、読書好きな方のご厚意が基金を通じて子どもたちの教育に繋がる『知のバトン』になればと考え、限定モデルを発売しました。本を開く度に子どもたちの今に思いを馳せ、基金PRにも繋れば幸いです。

フリーサイズ&着せ替えデザインのブックカバー「アマネカ・カスタム ハタチ基金チャリティーモデル」(WEBサイトでの限定発売)を通じて、販売価格の35%をご寄付いただいています。  
<http://jerrycole-design.com/>



大阪ガス株式会社  
近畿圏部  
ソーシャルデザイン室

横田 典子

私たちは被災地の子どもたちが笑顔で大きく育ってくれることを願い、ハタチ基金さんに関西から一枚の葉を託しています。月日は経っても被災地への思いを風化させないため、関西でもまた、私たちにできることに地道に取り組み、これからもエールを贈り続けたいと思います。

「チャリティファミリークリッキング」の参加費全額を大阪ガス社会貢献活動「小さな灯」運動を通じてご寄付いただきました。



平成28年生駒市  
成人式運営委員会  
栗本 佳奈

被災した子どものために少しでも力になれることがしたいという気持ちから、ハタチ基金を行い、当日は成人した多くの仲間たちが募金に協力をしてくれました。私達は子どもたちに希望を与えられる大人になります。これからも大変なことがあると思いますが頑張ってください。応援しています。

成人を記念した事業として、成人式の会場にてハタチ基金への募金を実施し、集められた募金をご寄付下さいました。



株式会社ディノス・セシール  
リビング本部  
インテリア・家庭用品部  
ゼネラルマネージャー

山野辺 庆子

町は人が作るもの。ハタチ基金さんの学びの場を提供する活動によって、子どもたちが震災からの復興を担うとともに、東北の新しい形を作り上げてくれることを、心より願っています。これからもお客様とともに、応援していきます。

対象カタログでのお買いもの1回につき10円が復興支援活動を行う団体への寄付に繋がるプロジェクト「東北に春をお届けします。」を通じて、ご寄付くださいました。



医療法人社団IHP  
高田馬場 新田歯科医院  
院長  
林 洋介

あれから5年。まだまだ継続的な支援がこれから時代を担う子どもたちには必要だと思います。用途が明確な募金がいいと思い、継続的に募金させていただいております。父の育った東北の地で、元気に頑張る子どもたちに出来る支援を今後も継続していきたいです。

医院の受付に募金箱を設置ください、医院からのご寄付と併せて毎年ご支援いただいています。  
<http://2th.jp/>

# 会計報告

## 〈公益社団法人ハタチ基金 決算報告〉

貸借対照表 2016年3月31日現在

科 目	金 額
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
現金預金	1,765,767
未収金	46,966
前払金	50,000
流動資産合計	1,862,733
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基本財産合計	0
(2) 特定資産	
助成事業特定資金(特)	39,036,468
特定資産合計	39,036,468
(3) その他固定資産	
ソフトウエア	3,000,668
その他固定資産合計	3,000,668
固定資産合計	42,037,136
<b>資産合計</b>	<b>43,899,869</b>
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
未払金	3,893,760
預り金	6,126
流動負債合計	6,126
2. 固定負債	
固定負債合計	0
<b>負債合計</b>	<b>3,899,886</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 指定正味財産	
寄付金	39,036,468
指定正味財産合計	39,036,468
2. 一般正味財産	963,515
正味財産合計	39,999,983
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>43,899,869</b>

●残高は2016年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。

●呼びかけ人の皆様からの継続的なご寄付については一般寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。

●ご都合の良い時にいたく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動のために活用させていただきます。

### 監査報告書

平成28年6月6日

公益社団法人ハタチ基金

代表理事 今村 久美殿 駒崎 弘樹殿 栗田 智子殿 能島 裕介殿

公益社団法人ハタチ基金 監事 瀧口 徹

私は、公益社団法人ハタチ基金の平成27年4月1日から平成28年3月31までの会計年度における会計ならびに業務を監査するため、帳簿および関係書類の閲覧、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取するなど、必要と思われる監査手続きを実施して財務諸表の正確性および業務執行の妥当性について検討しました。その結果、次のとおり報告いたします。

1.計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況を正しく示していると認めます。2.事業報告書は、法人の業務執行の状況を正しく示していると認めます。3.理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

## 〈2015年度公益社団法人ハタチ基金助成事業について〉

助成件数:4件 助成金額:56,000,000円



### 〈各団体の支出〉 (使用期間:2015年4月~2016年3月)

#### 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

●学校外教育パウチャー提供事業 【総事業費】107,227千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
パウチャー費	12,350
パウチャー利用者募集・選考費	2,000
大学生ボランティア研修費	1,800
その他運営費	2,850
合計	19,000

#### 認定NPO法人フローレンス

●小規模保育事業【総事業費】32,202千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費(運営スタッフなど)	92
運営費(施設賃貸料、改修工事費など)	13,907
合計	14,000

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。  
※千円未満の端数は切り捨て掲載しているため、内訳を足した金額と合計金額が異なることがあります。

#### NPO法人トイボックス

●みなみそうまラーニングセンター【総事業費】47,195千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
相談員など人件費	2,200
交通・通信・消耗品費等	600
広報・事務費	200
合計	3,000

#### 認定NPO法人カタリバ

●コラボ・スクール(女川向学館、大槌臨学舎)

【総事業費】161,937千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費(スタッフの雇用など)	5,982
移動・活動費(生徒送迎バス、交通費、宿泊費など)	301
教材費・備品・消耗品費(学習設備、事務用品など)	2,039
その他運営費(保険、広報、光熱費など)	11,676
合計	20,000

活動を支えてくださる皆様に感謝申し上げます。

●2015年度も皆様からのご支援をもとに、被災地で子ども支援を行う4団体の活動を支えることができました。温かいご支援に感謝申し上げます。

●震災から5年が経過した現在も、震災に起因する課題を抱えながら生活をしている子どもたちが数多くいます。そのような子どもたちを支えるためにはきめ細やかなサポートが必要になりますが、子どもたちを支えるスタッフの雇用や子どもたちの居場所となる施設を確保するための「活動資金」などの支援団体にとっても喫緊の課題としてあげられます。

●このような状況だからこそ、支援団体を継続的に下支えする取り組みは重要です。ハタチ基金は現地のニーズや復興状況に応じた活動を実施する支援団体が安心して目の前の子どもたちに向かえる様、引き続き、活動してまいります。

## 〈公益社団法人ハタチ基金引き継ぎ以前のご寄付について〉

ハタチ基金は2011年4月より「公益財団法人日本財団」を基金設置団体とし、被災地支援を実施する4つの団体との共同プロジェクトとして活動してまいりましたが、日本財団の参画終了に伴い、2014年10月1日付けで「公益社団法人ハタチ基金」を設立し、2015年1月14日をもって日本財団よりハタチ基金の運営管理を引き継ぎました。引き継ぎ日前日までに受領したご寄付については、日本財団が責任を持って事業決定し、使途の適正性を監査しました。引き継ぎ日以降に受領したご寄付については、公益社団法人ハタチ基金が、被災地支援および子どもの教育に見識のある選考委員の審議、ならびに助成金交付規程に基づいて適切に選考し、決定しました。

### 〈収支〉

科 目	内 訳	金 額
縰越金	2014年度縰越金	53,427
寄付収入		
配分金額	NPO法人トイボックス 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 認定NPO法人カタリバ	25,192 10,856 17,378
	合計	53,427
残高	縰越金+寄付収入-配分金額	0

### 認定NPO法人カタリバ

#### ●コラボ・スクール(女川向学館)【総事業費】87,408千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(スタッフの雇用など)	3,859
移動・活動費(生徒送迎バス、交通費、宿泊費など)	844
教材費・備品・消耗品費(学習設備、事務用品など)	372
その他運営費(保険、広報、光熱費など)	2,923
合計	8,000

#### ●コラボ・スクール(大槌臨学舎)【総事業費】74,528千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
人件費(スタッフの雇用など)	4,967
移動・活動費(生徒送迎バス、交通費、宿泊費など)	1,133
教材費・備品・消耗品費(学習設備、事務用品など)	380
その他運営費(保険、広報、光熱費など)	2,896
合計	9,378

### 〈各団体の支出〉

(使用期間:2015年4月1日～2016年3月31日)

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。※千円未満の端数は切り捨て掲載しているため、内訳を足した金額と合計金額が異なることがあります。

### NPO法人トイボックス

#### ●みなみそうまラーニングセンター【総事業費】47,195千円 (単位:千円)

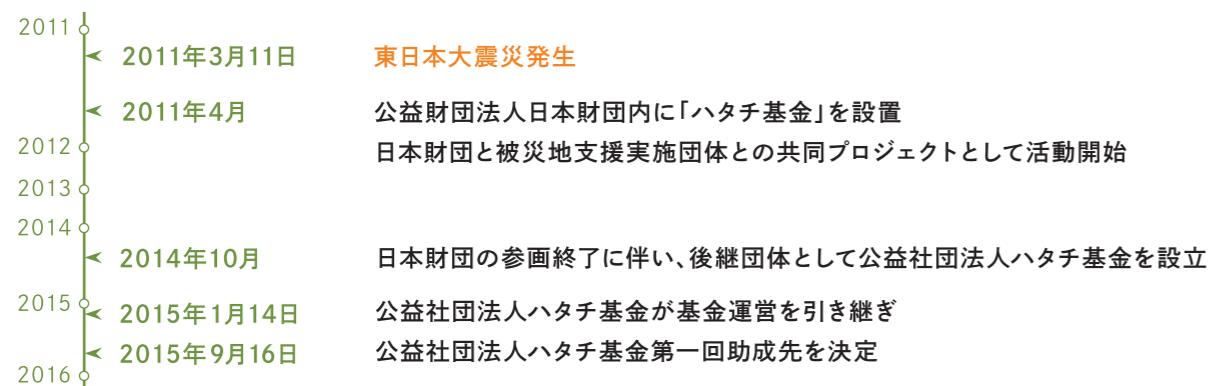
ハタチ基金からの支出内訳	金 額
相談員など人件費	15,165
旅費交通費・車両費	2,588
支援施設運営管理費(家賃・水光熱費・修繕費)	2,610
事業運営費(委託費・教材費・消耗品費・研修費など)	1,448
広報・通信費(広報費・通信運搬費)	2,286
その他(雑費、保険料、租税公課など)	1,095
合計	25,192

### 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

#### ●学校外教育パウチャー提供事業【総事業費】107,227千円 (単位:千円)

ハタチ基金からの支出内訳	金 額
パウチャー費	7,056
人件費(事業担当者)	783
パウチャー利用者募集・選考費(通信運搬費・外注費等)	896
大学生ボランティア研修費(講師謝礼・会議費等)	491
その他運営費(広報費・旅費交通費・管理スタッフ人件費等)	1,628
合計	10,856

## ハタチ基金の沿革

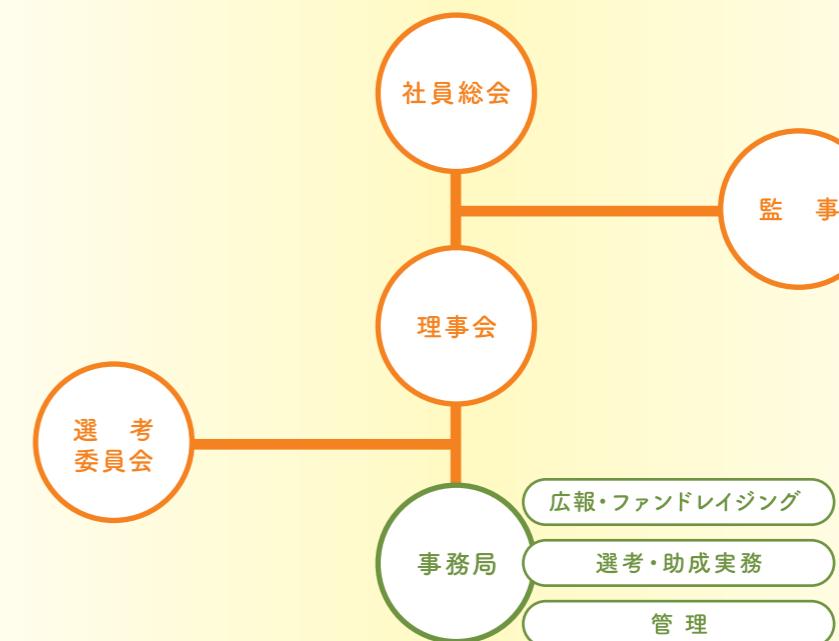


## 運営団体紹介

### 団体概要

名 称	公益社団法人ハタチ基金
本 部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
T E L	03-3330-0005
F A X	020-4665-3239
設 立	2014年10月1日 (2011年4月に基金設置)
役 員	代表理事/今村久美、駒崎弘樹、白井智子、能島裕介 監事/瀧口徹

### 組織図



2016年4月の経営合宿にて

代表理事  
今村 久美

代表理事  
白井 智子

代表理事  
駒崎 弘樹

代表理事  
能島 裕介

最後までご覧いただき、  
ありがとうございました。  
今後もハタチ基金を通じて  
子どもたちの成長に伴走いただきます様、  
何卒、宜しくお願いいたします。